

## 第3講 デジタルアーカイブの評価とメタデータ

谷 里佐（岐阜女子大学）

デジタルアーカイブは、対象とする資料（情報資源）の分野も多岐にわたり、プロジェクト規模なども異なるため、それぞれにあわせた評価手法が求められます。そこで、本講では、デジタルアーカイブの自己点検ツールとして考案された「デジタルアーカイブアセスメントツール」の内容を把握し、その評価項目の中でも重視されているメタデータについて、記述のための国際標準、国際指針として制定されている事例から学びます。

### 【学習到達目標】

- ・「デジタルアーカイブアセスメントツール」の内容について説明できる。
- ・記述のための国際標準、国際指針などの事例について説明できる。
- ・資料（情報資源）のメタデータ記述ができる。

### 1. デジタルアーカイブアセスメントツール

「デジタルアーカイブアセスメントツール」は、知的財産戦略本部デジタルアーカイブ推進委員会及び実務者検討委員会により、2018年4月に初版、2020年8月に改訂版が公開されました。

同委員会による報告書『我が国が目指すデジタルアーカイブ社会の実現に向けて』（2020年8月）では、デジタルアーカイブ社会の実現に向けた施策の検討の一つ（評価の枠組みの整備）として挙げられており、「来館者数やアクセス数等の従来型の指標だけでは、デジタルアーカイブの取組が適正に評価されない」との指摘に対応し、「各組織において求められる水準が異なることを踏まえ、項目ごとに三段階のモデルを用意し、求められている役割がどこまでできているかを客観的に評価」でき、「自らの役割に対しての達成度を確認」できるよう作成したと説明されています。

三段階のモデルと、評価項目は次のように設定され、それぞれのモデルごとに、評価項目に従って自己点検・評価を行うことができます。また、デジタルアーカイブへの取組、基本計画の適正性を判断する指標としても捉えることができます。なお、各評価項目については、2017年4月に公表された「デジタルアーカイブの構築・共有・活用ガイドライン」が参照されています。



デジタルアーカイブジャパン推進委員会及び実務者検討委員会(知的財産戦略本部)

[三段階のモデル]

- ・標準モデル（小規模な機関で行うことが推奨される水準）
- ・先進モデル（各機関のミッション等の必要に応じて目指す水準）
- ・つなぎ役モデル

（分野・地域コミュニティのつなぎ役の役割をもつ機関が目指す水準）

#### [評価項目]

- 1 組織的基盤の取組
- 2 メタデータの整備・公開
- 3 デジタルコンテンツの作成・公開
- 4 オープン化・二次利用可能性
- 5 持続可能性の担保
- 6 相互運用性の確保
- 7 利活用促進に向けた取組

## 2. ユニバーサルデザインとユーザビリティ、アクセシビリティ

デジタルアーカイブの評価の視点として、多様な利用者に「最大限可能な限り、すべての人々に利用しやすい」ものであるか、というユニバーサルデザインの考え方も重要です。

ユニバーサルデザインとは、提唱者であるロナルド・メイス（Ronald Mace）氏により「特別な製品や調整なく、最大限可能な限り、すべての人々に利用しやすい製品、サービス、環境のデザイン」と定義されているものです。

デジタルアーカイブの作成、公開にあたっても、旧来の作成者側の一方的な情報提供ではなく、利用者主体、ユニバーサルデザインの視点での評価を行うことで、利用者の能動的な利活用が期待できます。

他にも、特定の利用者が特定の状況下で目標を達成するための利用のしやすさに関わるユーザビリティや、さまざまな人のさまざまな状況での利用のしやすさに関わるアクセシビリティも、ユニバーサルデザインに関連して重視すべき視点です。たとえば、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れて作成されたものは、アクセシビリティが高いといえます。

また、人によって色の見え方が異なることに配慮し、どんな色や組み合わせにするかを考え、すべての人々に情報が正しく伝わる色を用いるカラーユニバーサルデザインや文字の大きさ、フォントに配慮するUDフォントなどもユニバーサルデザインの一つです。



デジタルアーカイブアセスメントツール（改定版）

### 3. メタデータの国際標準、国際指針

#### (1) メタデータとは

デジタルアーカイブの対象となる資料（情報資源）の発見、入手、アクセスの支援となる一つが、メタデータ（記述メタデータ）です。メタデータとは、「データに関するデータ」のことであり、二次情報とも呼ばれます。たとえば、ある文化財の写真データを収集、保管し、提供するときには、「資料タイトル」、「場所」、「時代」、「撮影日付」などの説明情報が必要です。この説明情報がメタデータです。本講の最初にご紹介した「デジタルアーカイブアセスメントツール」でも、メタデータに関する評価項目は多くを占めており、デジタルアーカイブの評価の視点としても重要であることが窺えます。

#### (2) 記述のための国際標準、国際指針

メタデータは、統一した記述であることが求められます。なぜなら、記述した人ごとにバラバラなメタデータを付与されると、利用者は必要とする資料にアクセスすることが困難になるからです。

そのため、次のように、いくつかの分野では、共通に利用できるメタデータとして、記述のための国際標準や国際指針が決められています。

#### ○ Object ID

Object ID は、文化財を文書化し、識別するための規格（国際標準）です。博物館などの資料の紛失、盗難などの際に必要とされる要素がまとめられています。博物館のほか、警察、税関、鑑定士、保険業界などの協力を得て開発され、ライセンスは、ICOM（国際博物館会議）が有しています。

#### ○ ダブリン・コア

ダブリン・コア・メタデータ基本記述要素集合（Dublin Core Metadata Element Set : DCMES）は、さまざまなメタデータにおいてコア（核）となる要素を定めたものです。DCMI（Dublin Core Metadata Initiative）が管理しており、DCMI のウェブサイトでは情報を確認することができます。

DCMES は、2003 年に国際標準とされ、その後、要素を拡張した DCMI メタデータ語彙（DCMI Metadata Terms）も国際標準とされています。

#### [DCMES (SimpleDC) ]

1. Title (タイトル)
2. Creator (作成者)
3. Subject (キーワード)



DCMI (Dublin Core Metadata Initiative)

4. Description (内容記述)
5. Publisher (公開者)
6. Contributor (寄与者)
7. Date (日付)
8. Type (資源タイプ)
9. Format (記録形式)
10. Identifier (資源識別子)
11. Source (出処)
12. Language (言語)
13. Relation (関係)
14. Coverage (空間範囲)
15. Rights (権利管理)

DCMES は相互運用性にすぐれており、異なるメタデータ記述がなされている機関の情報を集約する場合に、メタデータを DCMS に変換することで、相互運用に供することが可能になります。

## ○ IGMOI

博物館資料情報のための国際指針 : CIDOC 情報カテゴリ (International Guidelines for Museum Object Information : IGMOI) は、博物館資料の記述に必要とされる項目を示したものであり、ICOM の国際ドキュメンテーション委員会 (CIDOC) によって 1995 年に開発されたものです。

22 の情報グループと 74 の情報カテゴリ (記述項目) で構成され、資料の状態情報を記述する項目など、長期保存のための修復や取扱いを重視する博物館資料の特性を取り入れた項目設定がなされています。

上記の他にも、文書館の史資料を対象とした ISAD (G) (国際標準 : 記録史料記述の一般原則) や、ISDF (機能の記述に関する国際標準) , ISDIAH (アーカイブズ所蔵機関の記述に関する国際標準) , 図書館の書誌記述に関わる ISBD (国際標準書誌記述) など、各分野で記述の標準化がなされています。

## 4. 地域資料のためのメタデータ記述項目

地域資料は、地域の歴史、年中行事から、そこに暮らす人々の衣食住、思いに至るまで、さまざまなもののが存在します。そこで、岐阜女子大学では、地域資料のためのメタデータ記述項目として、Object ID やダブリン・コアを参考に、

「いつ」，「どこで」，「誰が」，「何を」，「どうした」，「どのように」の5W1Hを軸にした項目設定を行いました。

とくに，「どうした」，「どのように」にあたる「処理プロセス」や「改善結果」を記述できる項目を設定し，資料の利活用の方法や，評価，改善結果により新たな資料が作成されたなどの情報を記述することで，一つの資料（知）から新たな資料（知）が創出される「知の増殖型サイクル」に対応させています。

#### [地域資料のためのメタデータ記述項目（岐阜女子大学）]

- |           |             |
|-----------|-------------|
| 1. ID     | 13. 権利者     |
| 2. 表題名    | 14. 協力者     |
| 3. 資料名    | 15. 登録日     |
| 4. 内容分類   | 16. 登録者     |
| 5. 索引語    | 17. ファクトデータ |
| 6. 説明     | 18. サムネイル   |
| 7. 形式     | 19. 公開の可否   |
| 8. 作成者    | 20. 特色      |
| 9. 時代・年   | 21. 活用支援    |
| 10. 地域・場所 | 22. 利用分野    |
| 11. 利用条件  | 23. 改善結果    |
| 12. 関連資料  | 24. 処理プロセス  |

### 課題

1. 「デジタルアーカイブアセスメントツール」の評価項目の内，あなたが重要だと思う項目について，なぜそう思うかを含めて説明してください。
2. 具体的に何か資料（情報資源）を一つ取り上げ，その資料のメタデータ記述項目を設定した上で実際の記述を行ってください。